

目指せ!生産150%、増頭140%のTMRセンター運営支援

(標津町)

1 課題の背景*****

家族経営農場の抱えている労働力の負担軽減、牧草収穫作業の効率化などによる自給飼料の品質向上および安定供給を目的とした、標津町のTMRセンター「酪援・緑」が平成28年10月に稼働した。

TMRセンター稼働前から乳牛の飼養管理などの改善を提案し、構成員農場のTMRセンターへの移行を円滑に行い、稼働してから5年後の目標を「出荷乳量150%、経産牛頭数140%」を構成員との共通認識として支援を行っている。



2 活動の経過*****

具体的推進事項	活動内容	時期	方法	対象
TMR稼働前後の飼養管理改善支援	構成員農場の飼料給与状況の確認	H28 4~5月	戸別	5戸(6農場)
	TMR給与に向けた給与メニューの提案	H28 5~9月	戸別・集団	5戸(6農場)
	構成員農場の飼養管理技術改善	H28 5月~	戸別・集団	5戸(6農場)
	センター稼働後の粗飼料分析に応じた給与メニューの提案	H28 10月~	戸別	5戸(6農場)

(1) 構成員農場の飼料給与状況の確認

個別巡回を行い、各構成員の搾乳牛および乾乳牛の飼料給与状況の実態調査を行った。

(2) TMR給与に向けた給与メニューの提案

実態調査から、個々の目標乳量を確認し、それに見合った給与メニューの提案を行った。

(3) 飼養管理技術の改善(情報の共有化)

給与したTMR飼料で効率よく生産を伸ばすため、乳牛検定情報やバルク乳出荷旬報などのデータを構成員同士で共有したり、農場巡回を行い、改善点などの意見を出し合い、今後の経営改善につながる取組を構築した。



構成員同士での巡回の様子



データを共有し意見を出し合う

(4) センター稼働後の給与メニューの提案

2週間に一回、サイレージの粗飼料分析を行い、それに基づいた給与メニューの提案を行っている。また、サイレージの水分の変化による採食量の変化を最小限に抑えるため、サイレージの水分は毎日測定することを提案し、実践した。



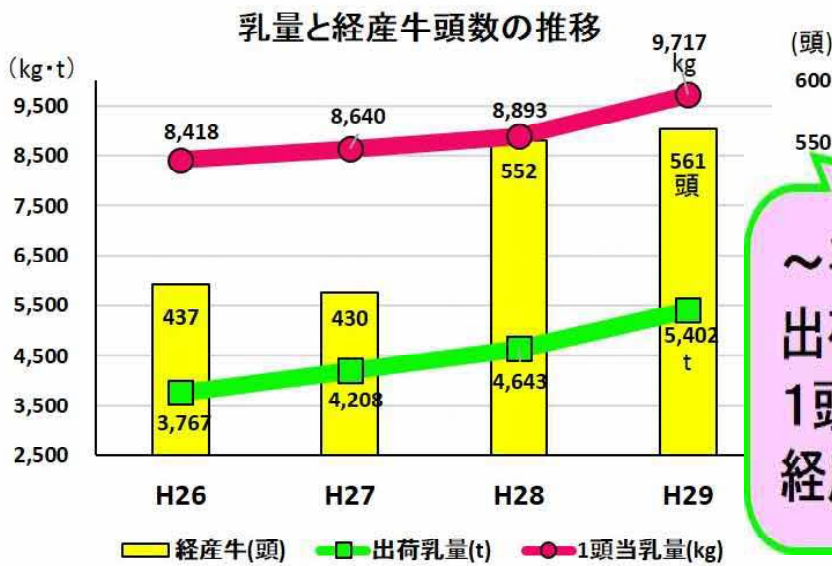
生ゴミ処理機で毎日水分測定!!



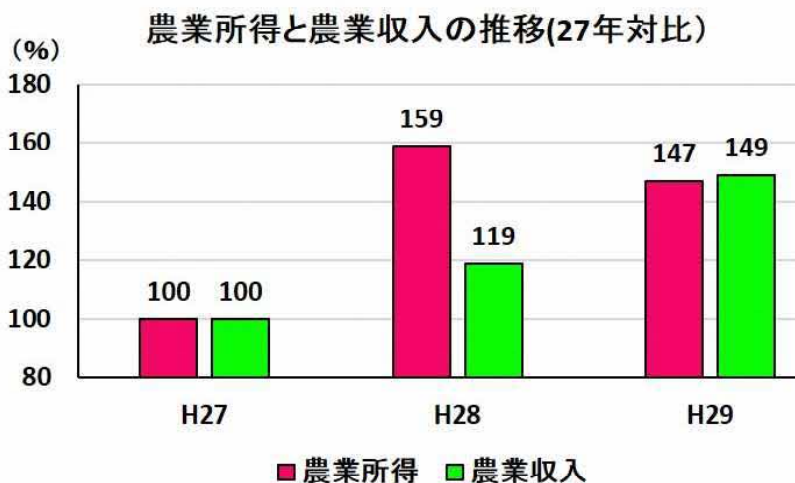
給与メニューの検討の様子

3 活動の成果*****

活動を行う事で、円滑にTMRセンターに移行した。その結果、乳量の増加、増頭につながり、農業所得や農業収入も増加した。



~平成27年対比~
 出荷乳量 : 128%
 1頭当乳量 : 109%
 経産牛頭数 : 130%



このような取組
 や地域支援の一
 つ一つが地域の
 生産向上や振興
 に繋がっている!!